## 



## 木曽街道5

## 塔野~土田



刎橋



"土田の刎橋、大田の渡し、碓氷峠がなけりゃよい" とも唄われたほどの難所の一つ

森長可の首級を運ぶ時と、幕末、天狗党の名古屋

入り阻止のため橋を落としている。



臨済宗妙心寺派真禅寺

土田城址

本尊 聖観音、行基が鳩吹山奥洞で

修行したときに刻んだとの伝え残る。

文永年間(1264-75)に建立されたが荒廃し

永正8年(1511)土田城主生駒道寿再建再び荒廃 金山城主森武藏守長可から寺領受け菩提寺になる

近江佐々木義詮の末裔、山内秀久が土田に移り住み 土田を名乗る。親交のあった現江南市小折の生駒家広 の娘を妻とした。その後、秀久と家広不仲となったので 娘は実家に戻る。次男政久が織田家に仕え土田城を築城。 政久の子、親重が生駒家に養子になり土田城主を継ぐ。 親重の子の親正が信長の命で城を出て廃城。政久

の娘が織田信秀に嫁ぎ、信長を生む、土田御前。



鳩吹山

中濃大橋

横町

塚岩三郎の石柱

ロー・発祥の地) 可児川駅へ

☑ 刎橋

西有児駅

田城跡



Ħ





裏山に森長可の首塚と言われる宝篋印塔、五輪塔がある



森長可墓

かたびら 地名 帷子の由来

東海自然歩道名古屋から六里、交通量は多くなかった様子

長久手の戦いで敗れた森長可の家来たちは この辺りの真禅寺に主君の首を葬り、鎧を脱ぎ 、その下に着てい帷子を野良着に帰農した。

石拾い峠 標高160m

旅人が険しい峠道の無事を 尾張の国から美濃の国へがつて、石を積んだという。

臨済宗妙心派福寿山禅徳寺

文明6年(1474)開創 真福寺末寺

里塚碑 声師野宿 堀澤周安の墓 (寺境内) 明治2年生まれ、国文学者、 明治節の歌作詞 本陣日比<mark>野家</mark>

辺り伏屋

友燈

善師野駅

竃石切り

澤周安碑

臨済宗妙心派護應山 清水寺(せいすいじ) 坂上田村磨と因縁深い寺

(伏屋地区)

名古屋から6里、小牧まで3里、土田へ2里。 本陣は日比野家、問屋は澤木家と本陣の

日比野家。人足50人、馬25匹、臨時に備え25匹と 助郷31ケ村の規模であったが交通量少なかった。

中山道大田川満水のときの迂回路しても利用されていた

澤木家に残る記録によると。天正10年2月織田信忠、 3月に織田信長、慶応5年に徳川秀忠が通過している。 享保11年には日光例幣使、明治には髙松殿、綾小路様 の記録が残る。中山道が太田宿ができるまで、その後 太田の渡しが渡河できない時は、土田一善師野-犬山の内田の渡しのルートが使われていた

この辺りは伏屋の地名残り東山道ルートの可能性もあり。



手前澤木家、右前方常夜燈

犬山方面

名鉄広見

G

問屋澤木家

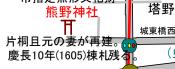
清水の道標 右いぬ山、左な

尾張パークウェイ

(椿、白い彼岸花でも知られている) 塔野地獅子舞 

標識

寺伝にいふ、当寺は延暦24年坂上田村麿の建立、中興開山は 悟渓和尚にして、その後寛永20年僧空屋の再建になり 本尊釈迦木像、観音堂聖徳太子作馬頭観音を安置す。 田村麿の寄付。



市指定無形文化財

(虫送りの行事七月十三日)

木曽街道 ⑤ H25-11-20 あきやま